

日本の神話を
日常に取り入れるための
勉強会

古事記

ファシリテーター：かつた

古事記ってどんな書物??

- 古事記...最古の歴史書で日本という国の成り立ちを表すもの
- 古代の神々(旧辞)と天皇(帝紀)の歴史物語
- 681年(40代天武天皇)にはじまり、712年(43代元明天皇)に献上された
- 稗田阿礼が暗誦した内容を語る→それを太安万侶が書き記すという方法で完成
- 稗田阿礼は素晴らしい記憶の持ち主。一度見たものや聞いたことを記憶するという才を持つ
- 太安万侶は学者だった
- 天武天皇の時代に倭から日本へと呼び名が変わった
- 日本書紀...日本の正史の一番目
- 天武天皇の命により国史編纂事業として→公的・国外向けとしても通用する漢文
- 681年(40代天武天皇)にはじまり、720年(元正天皇)に完成。多くの官人や知識人が関わった国家プロジェクト
- 役人の必読書として講義が開かれた。

古事記に登場する神々

神	読み方	意味	特徴
天之御中主神	アメノミナカヌシ	ビッグバン	小さな光の粒・あらゆるところに存在
高御産巢日神	タカミムスヒ	生命活動 ムス=育つ・生える	天から誕生
神産巢日神	カムムスヒ	生命活動	地から誕生
宇摩志安斯訶備比古遲神	ウマシアシカビヒコヂ	命の素となる神様	麴・カビ・菌 葦→
天之常立神	アメノトコタチ	天をつくる霊力	ここまでが『別天つ神』
国之常立神	クニトコタチ	国(大地)をつくる	
豊雲野神	トヨクモ	星雲	

- 古事記には307柱の神様が登場
- その中で神話の中心となるのは30柱ほどの神様
- 国之常立神から神代7代が始まり、豊雲野神の次から夫婦神が生まれる。
- 最後に生まれた夫婦神が伊耶那岐(イザナギ)と伊耶那美(イザナミ)
- アメノミナカヌシからイザナギ・イザナミの誕生までが150億年

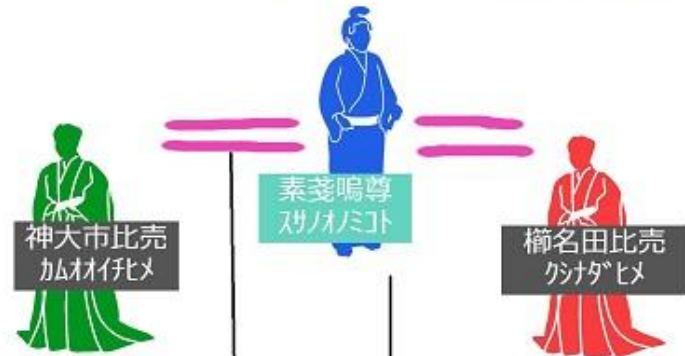
イザナギとイザナミの国産み

- 神様たちの会議により国産みをはじめる
- 島々を作ったアメノヌボコ
- 初めての結婚の儀(アメノミハシラ)
- 最初の子供は蛭子(ヒルコ)
- その後も不完全な子泡嶋(あわしま)
- 神様に相談
- 再度結婚の儀
- 島々を形成→淡路島、四国、隠岐の島、九州、壱岐の島、対馬、佐渡の島、本州→大八嶋(おおやしま)の国
- 吉備の児島、大島、姫島、五島列島、双子の島



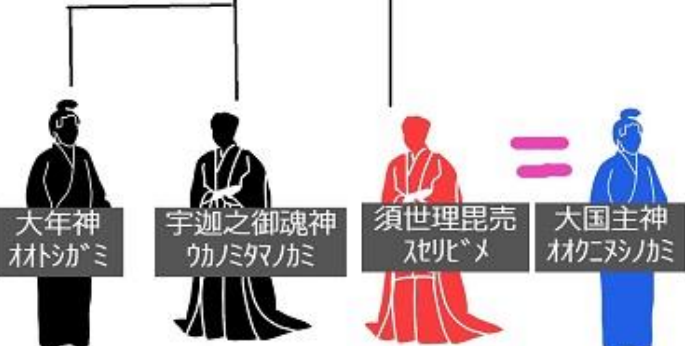
伊弉諾神伊弉諾の禊より誕生した三柱

造化三神

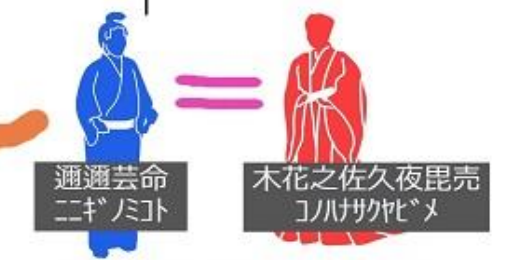


宗像三女神
アマテラスとスサノの誓約により誕生

アマテラスとスサノの誓約により誕生



国譲りを迫る



ニギハヤヒノミコトとコハサケヤヒメの子孫が神武天皇